

さいたま市 内水ハザードマップ



Saitama City Inland Water Hazard Map 埼玉県内涝害予測地図 サイタマ市 内水ハザードマップ

◆内水ハザードマップとは What is Inland Water Hazard Map? 何謂内涝害予測地図 内水ハザードマップとは、下水道の排水能力を超える大雨によって内水はん濫が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深等を、浸水シミュレーションにより示したものです。日頃の備えや避難の際に役立てていただくなど、市民の皆様への自助・互助の促進を目的として作成しました。このマップの地図画面は、想定される浸水深0cmから5m以上まで6段階で色分けし、25m×25mの正方形で表示しています。お住まいの地域の浸水深を確認し、安全に移動できる避難ルートを確認してください。雨の降り方や土地の状況の変化などにより、浸水区域や浸水深が地図と異なる場合もあるため、複数の避難ルートを考えておきましょう。

This Inland Water Hazard Map shows the inundation area and depth of inundation that can be anticipated in the occurrence of inland water flooding caused by heavy rainfall that exceeds the drainage capacity of the sewerage system, based on inundation simulation. It was prepared with the aim of promoting self-help and mutual-help among citizens by helping them prepare for everyday needs and evacuation. On this map's surface, the assumed inundation depths from 20 cm to more than 5 m are color-coded in six levels and indicated by a 25 m x 25 m square. Please check the depth of inundation in your area and make sure you have a safe evacuation route to move to. Consider multiple evacuation routes, as the flooded area and depth of flooding may differ from the map due to rainfall and changes in the land plane.

◆内水ハザードマップを使用した条件 このマップは、想定し得る最大規模の雨(時間最大153mm、総雨量249mm)がさいたま市全域に降り、放流先河川の水位も高い場合を想定して浸水シミュレーションを行い、作成しました。浸水シミュレーションに反映した情報は、地盤高などの地形情報(国土地理院のレーザー測量5mメッシュ(標高)「測量法に基づく国土地理院承認(使用)内 2月1日」を基に作成)や市内の主要な河川下水道等を反映しています。また下水道の貯留施設、ポンプ場、排水機場、ゲート等の情報は、令和2年度末時点です。

◆内水ハザードマップを使用する時の注意事項 想定される浸水区域や浸水深は、雨の降り方や土地の形状及び河川/下水道等の整備状況などにより変化します。そのため、大雨の際に必ずこの地図を示すとおりに浸水するというのではなく、浸水が想定されない地域でも、状況によっては浸水することもあるため、十分に留意してください。 ※このマップは一般河川の内外水はん濫(洪水)は考慮していません。最新の洪水ハザードマップも併せてご確認ください。 また、市民の皆様から通報があった浸水情報は考慮していません。過去の浸水情報については、各区情報公開コーナーに設置しております。【さいたま市の水害に関する情報について】をご覧ください。

このマップで得られる情報

Information available in this map 此地图上可获得之资讯 此地图上可获得之资讯

1. 浸水発生メカニズム
2. 生命・財産を守る情報
3. 気象の情報
4. 関係機関の連絡先
5. 避難時の注意点
6. 日頃からのこころがけ
7. 教えてヌウ先生!



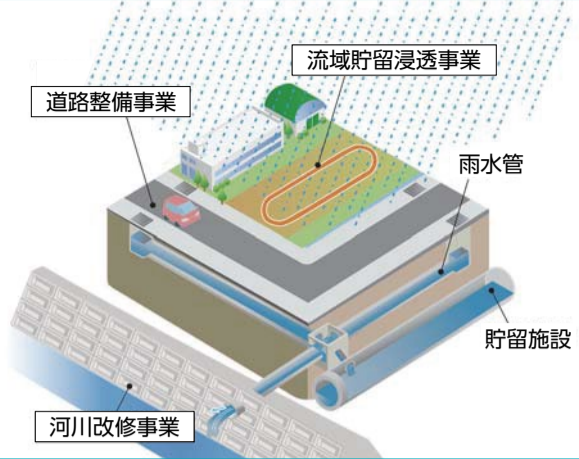
https://www.city.saitama.jp/001/006/003/002/001/p078773.html

令和3年4月

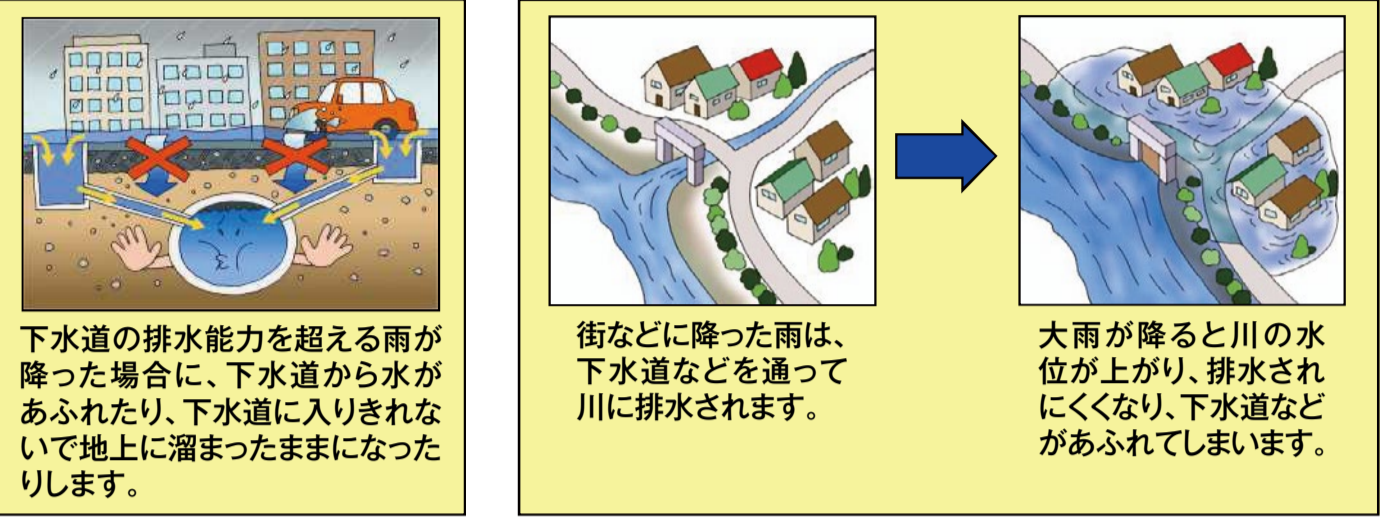
1. 浸水発生メカニズム

(1) 本市の整備水準

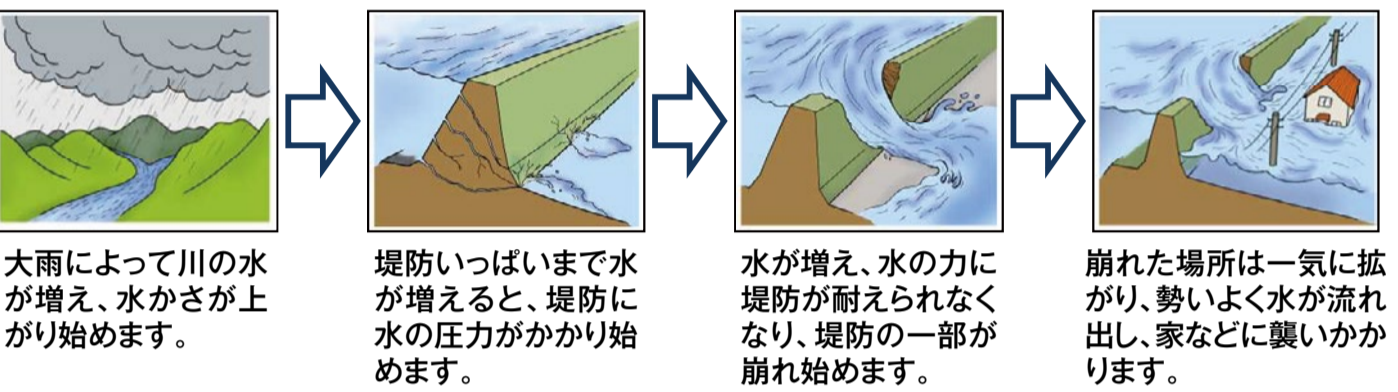
本市は内陸部に位置しているため、雨水は国や県が管理する一般河川に流していますが、放流先の河川の整備状況により、放流量に制限が設けられています。本市の下水道による浸水対策は、1時間当たり約56mmの降雨に対応できるように、放流先河川の整備状況に合わせて、雨水管や貯留施設などの整備を進めてきました。また、本市管理河川については、1時間当たり約30mm～50mmの降雨による洪水を安全に湛下させるための治水対策を推進してきました。しかし、近年、気象変動の影響により整備水準を上回る大雨が多発していることや、都市化の進展による雨水流出量の増加などにより、雨水が集まりやすい低地部などにより、浸水被害が発生しています。【総合的な浸水対策の推進】「雨水流出抑制対策」の3つの軸を中心に、今後も浸水対策を進めていきます。



内水はん濫のメカニズム (出典:国土交通省HP)



外水はん濫(洪水)のメカニズム (出典:国土交通省HP)



(2) 内水はん濫の発生しやすい箇所

下水道幹線や水路沿いは、河川水位が上昇すると、下水道や水路から河川に排水できなくなるため、内水はん濫が発生しやすい箇所となります。また、低地は周りから水が集まりやすいため、内水はん濫が発生しやすい箇所となります。



2. 生命・財産を守る情報

(1) 避難の情報

それぞれの警戒レベルに相当する情報を早めに集め、避難行動の判断として、立ててください。市町村からの避難情報の発令に留意するとともに、避難情報が発表されていなくても自ら避難の判断をしてください。警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。激しい降雨が継続すると、外水はん濫(洪水)が発生する危険が高まります。

(2) 情報の収集

情報には、プッシュ型(自動通知される情報)とプル型(自ら情報を取得するもの)があります。プッシュ型通知は、自動で配信されるものあらかじめ登録しておくことで、自動配信されるようになるものがあります。気象、河川に関する警報や避難情報に充分注意し、慌てず冷静に判断して行動しましょう。

【プッシュ型通知：自動配信メール】

- ・緊急連絡メール・エリアメール 配信対象市町村内の携帯電話 (NTT ドコモ、KDDI・沖縄セルラー (au)、ソフトバンク、楽天モバイル) のユーザーは、市が配信する避難情報を自動で受信できます。
- ・さいたま市防災行政無線メール 事前に登録することで、災害時緊急情報等の防災行政無線で放送した内容を自動で受信できるようになります。 URL https://www.city.saitama.jp/001/011/015/004/002/p054192.html
- ・災害時防災情報電話サービス 携帯電話やスマートフォンを所持しておらず、メール等の利用が困難な方を対象に、避難情報等を固定電話、または FAX に配信するサービスです。 URL https://www.city.saitama.jp/001/011/015/004/002/p071187.html

気象情報

注意報、警報等の情報を手でできます。さいたま市の注意報・警報等気象情報 https://saitama-city.bosai.info/ui/dashboard



Yahoo! 天気アプリ

https://weather.yahoo.co.jp/weather/promo/app/



河川などの水位情報

川や下水道の水位・カメラ等の情報を手でできます。国土交通省 川の防災情報 https://www.river.go.jp/portal/#80



さいたま市水位情報システム

https://www.flood-info.city.saitama.jp/jp/index.html



防災情報

ハザードマップ・災害への備え等の情報を手でできます。さいたま市危機管理防災気象情報 https://www.city.saitama.jp/bousai/index.html



さいたま市洪水ハザードマップ

https://www.city.saitama.jp/001/011/015/002/003/p008311.html



3. 気象の情報

(1) 気象庁が発表する警報・注意報

警報・注意報を発表する際は、雨の降雨量だけでなく、上流域に降る雨の量や、上流域からの流下時間を考慮しています。また、地中にしみ込んだ雨が原因となって、災害が発生するおそれがあるときは、警報・注意報は、継続されます。

【種類】	【発表の時期】
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合。
大雨警報	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。
洪水警報	洪水によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。
記録的短時間大雨情報	大雨警報が発表されていなくても、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測または解析した場合。 ※さいたま市の場合は1時間雨量が100mm以上
大雨注意報	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合。
洪水注意報	洪水によって、災害が起こるおそれがある場合。

※大雨に洪水の注意報・警報に適用される発表基準や雨量指数の基準値に関しては、気象庁HPをご覧ください。

(2) 雨の降り方と強さ

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降りかたと雨量の関係を知っておきましょう。

予想雨量 (1時間雨量)	やや強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm)	猛烈な雨 (80mm以上)
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴゴゴと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面から跳ね返りて足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる		
屋内 (水道住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生まれブレーキ効力がなくなる	車の運転は危険		

大雨のときの行動の目安です。雨の降り方や地形・土地の状況などによって地域の危険度が変わるため、周囲の状況をよく見て、冷静に判断して行動しましょう。

4. 関係機関の連絡先

(1) 連絡先

関係機関の連絡先

- ◆浸水に備えて
 - 防災対策全般に関すること 総務局危機管理部防災課 ☎ 048-829-1126
 - 洪水ハザードマップに関すること 総務局危機管理部防災課 ☎ 048-829-1126
- ◆浸水の発生したとき
 - 住宅の浸水や道路冠水が発生したとき 北区役所 ☎ 048-653-1111
 - 避難所の開設状況を確認したいとき 北区役所区民生活部総務課 ☎ 048-669-6013
 - 緊急性がある場合、救急車や消防隊の活動が必要とき 消防局 ☎ 119
- ◆浸水被害を受けたとき
 - 罹災証明書の発行について 北区役所区民生活部総務課 ☎ 048-669-6013
 - 冠水した道路の消通について 北区役所くらし応援室 ☎ 048-669-6026

災害時に役立つ連絡方法

水害や地震などの大きな災害が発生すると、被災地への電話が集中し、つながりにくくなります。このような状況で、家族や知人との間の安否の確認や避難場所の連絡等をスムーズに行うため、固定電話・携帯電話・インターネットを利用し、伝言を「音声」で登録することができる「災害用伝言ダイヤル」、伝言を「文字」で登録することができる「災害用伝言板」を提供しています。

「災害用伝言ダイヤル171」の活用

大規模災害発生時に家族の安否等の情報を電話で伝言として保存したり、再生することのできるNTTが行うサービスです。



防災まちづくり情報マップ

本市では、HP (https://www.sonicweb-esp.jp/saitama_g/) に掲載してある地理情報システム (GIS) 「さいたま市地図情報」を活用しており、地震災害に関するリスク情報などに加えて、一般河川の洪水ハザードマップ等の各種防災マップも掲載しています。自宅の住所を入力すれば、ピンポイントで身近な災害リスクの情報が確認できます。

(2) わが家の防災メモ

わが家の指定緊急避難場所 1	家族の集会所
名前	家族の集会所
血液型	災害時の連絡先
電話番号	
会社・学校名	会社・学校の連絡先

さいたま市内水ハザードマップに関するお問合せ先

- 建設局 下水道部 下水道計画課 TEL 048-829-1566 FAX 048-829-1975
- 建設局 土木部 河川課 TEL 048-829-1585 FAX 048-829-1988
- 総務局 危機管理部 防災課 TEL 048-829-1126 FAX 048-829-1978

5. 避難時の注意点

局所的大雨などにより、急に浸水が起こることがあるため、早めの対応を心がけましょう。水深20cm程度でも水の流れによっては、歩行が困難になります。高齢者や子供は大変危険です。もしも逃げ遅れたら、高所に避難して救助を待ちましょう。

正確な情報収集と自主的避難を

- ・ラジオ・テレビ・インターネットで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。
- ・雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

動きやすい服装、2人以上での避難

- ・避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

自動車での避難は控えて

- ・自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、自動車が冠水した道路を走行すると、エンジン等に不具合が発生し、移動ができなくなるおそれがあります。特別の場合を除きやめましょう。
- ・堤防や道路に自動車を放置すると、水防活動の妨げになりますのでやめましょう。
- ・近くの丈夫な建物のなるべく高い階に避難して救助を待ちましょう。
- ・住宅の二階部分でも危険な場所があります。場合によっては屋上へ移動し、垂直避難を行うことで身の安全を確保しましょう。

地下道などの注意を要する場所

市内には道路などの立体的交通網が多くあります。とくに、浸水時などに水深が深くなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。

地下空間の危険性

地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ってくる場合があります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。地下室では外の様子がわかりません。地下室では雨の強さや天候の急激な変化に気がつきづらいため、気象情報などに注意が必要です。また、外の様子が変わったときは地下室内の人に知らせましょう。

浸水すると停電するおそれがあります

停電すると電灯が消えて真っ暗になります。また、エレベーターは使えません。水圧でドアは開きません。ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができません。

(1) 事前の準備

建物などでの事前準備

- ・側溝や雨水槽を清掃しましょう。
- ・雨戸や樹の上に垂り入れブロックなどの物を置かないようにしましょう。
- ・浸水に備えて、建物の周囲にあるものを片付けておきましょう。
- ・雨戸のないガラス窓は飛来物に備えて、外側から板でかさねなどの処置をとりましょう。
- ・浸水の危険がある場合には、大切な家具道具は二階や高い安全な場所に移動させましょう。
- ・簡単な土のうの作り方 水深が浅い段階なら、家庭にあるごみ袋、レジャーシート、プランターなどを活用した応急処置で対処が可能です。

家庭などでの事前準備

- ・生活用水を貯めておきましょう。(飲料水は、1人1日3Lが目安)
- ・指定緊急避難場所までのルートあらかじめ決めておき、安全に通行できるか確認しておきましょう。

(2) 非常持出品と備蓄品

大規模災害時、被災地に救援物資が届くまでには、おおむね3日かかると言われています。非常持出品は、必要小額のものを厳選し、一まとめにすぐ持ち出せる場所に保管しておきましょう。また、在宅避難の際に、災害から復旧するまでの数日間を支える備蓄品を分けて用意しましょう。特に、食料や飲料水などを普段から多めに常備し、利用しながら買入りを繰り返す【ローリングストック】を心がけましょう。

- 高齢者や乳幼児など、家族構成に応じて特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
- 非常持出品は保存状態や使用期限などを定期的に点検し、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

チェックリスト

水・食料	貴重品	生活用品	救急用品	衛生用品	その他
<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 調理油 <input type="checkbox"/> 乾パン <input type="checkbox"/> 缶詰 <input type="checkbox"/> 乾麺 <input type="checkbox"/> 乾わかめ <input type="checkbox"/> 乾わかめ <input type="checkbox"/> 乾わかめ	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 貴重書類 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 貴重品 <input type="checkbox"/> 貴重品 <input type="checkbox"/> 貴重品	<input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池) <input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池) <input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池) <input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池) <input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池) <input type="checkbox"/> 懐中電筒(予備の電池)	<input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 救急箱	<input type="checkbox"/> チョウキ <input type="checkbox"/> チョウキ <input type="checkbox"/> チョウキ <input type="checkbox"/> チョウキ <input type="checkbox"/> チョウキ <input type="checkbox"/> チョウキ	<input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ヘルメット

(3) マイ・タイムラインの作成

「マイ・タイムライン」とは、住民一人ひとりの「防災行動計画」を立てることで、台風の接近によって河川の水位が上昇する時に、自分自身と関係する防災行動を「さいたま市マイ・タイムライン」にて整理し、とりまきましょう。(風水害に備えて「マイ・タイムライン」を作りましょう: https://www.city.saitama.jp/001/011/015/003/003/p063827.html)。また、国土地理院HP (https://www.gsi.go.jp/) やさいたま市HPで (https://www.city.saitama.jp/001/010/014/008/p047050.html)、自分の住むところの高さを調べてみましょう。一般的に低いところは、水が涌りやすいです。

7. 教えてヌウ先生!

ヌウ先生より、このハザードマップについて、教えてもらおう!

- Q5 今後、内水ハザードマップで浸水が想定される箇所は、浸水が解消されるよう対策しているの?
- A5 このハザードマップは避難等の自助・互助の促進を目的として作成した。そのため、浸水対策はハザードマップの浸水想定を全て解消するよう整備ではなく、さいたま市の整備水準に沿って整備を進めていく。
- Q6 実際にこのような大きい浸水被害が発生するの?
- A6 想定し得る最大規模の降雨は、現状の科学的知見等を踏まえ、利用可能な気象観測等の結果を用い、同時期において想定し得る最大規模の降雨を想定している。実際に千歳異常気象取組は、平均1時間に153mmの降雨を観測したことがあった。
- Q7 今回のシミュレーションとはどんなものなの?
- A7 地盤高等の地形情報、主要な下水道や水路等の排水施設、放流先である河川の状況等をコンピュータの中に再現し、想定し得る最大規模の雨がさいたま市全域に降った場合、どのように浸水するのかを総合的に解析したものだ。
- Q8 このハザードマップは想定し得る最大規模の浸水被害を想定しているの? これ以上大きい浸水被害が起こることはないの?
- A8 浸水シミュレーションを行うコンピュータにも限界があって、歩道の幅が段々狭くなる、実現象と全く同じにはならない。また、雨の降り方によって、同じ雨量でも浸水範囲や浸水深が変わるから注意してね。
- Q9 浸水想定の色が判断しづらいのだけど、もっと見やすいマップはないの?
- A9 国の規定により、自治体間で統一するため、自治体間でも統一している。印刷したマップは色分けせず、市HPには塗り分けのマップを掲載しているから確認してみてください。

ヌウ先生より、市民の皆様へのお話し! 日頃から、このハザードマップを読んで、浸水被害に備えておいてね!(^^) もっと詳しく知りたい方は、HPに掲載しているQA集をご覧ください https://www.city.saitama.jp/001/006/003/002/001/p078773.html